

1 経営戦略の見直しについて

(1)計画の見直し

下水道使用料の見直しの年(おおむね4年に一度)に、新たに10年間の投資財政計画を作成するとともに、実施状況の検証・分析、経営環境の変化に対応した内容に更新するなどの見直しを行います。

(2)計画期間

令和5年度から令和14年度までの10年間

(3)改定に伴う変更点

全体の構成に変更はありません。前回の経営戦略の策定時から、令和3年度までの実績や社会情勢の変化を踏まえ、人口推計の見直しやそれに伴う汚水量の変化、及びそれらを反映させた投資財政計画、50年シミュレーションの見直しを内容に反映させることが、今回の経営戦略改定の主な趣旨となります。

2 経営戦略の構成

◎第1章 策定の趣旨

「策定の背景と目的」「計画期間」「経営戦略の位置付け」の3つの項目について経営戦略策定時の前提となる事項を説明しています。

◎第2章 現状と課題

- ・事業の現況・汚水処理の状況と将来見通し・雨水渠整備事業の状況
- ・施設の状況と将来見通し
- ・財務状況の将来見通し・組織の状況と将来見通し
- ・経営健全化の取組状況・経営指標による現状分析

上記の項目ごとに、長野市の下水道事業の現状と、今後50年間の状況の変化についてグラフ等を用いて説明しています。

◎第3章 経営の基本方針

「長野市下水道ビジョン」を基に、長野市の下水道事業として目指すべき方向性について説明しています。

◎第4章 投資・財政計画

長野市の下水道事業の50年先を見据え、投資、財源、投資以外の経費についてという観点から説明しています。

◎第5章 事後検証と計画の見直し

経営戦略について、事後検証や計画の見直しの頻度等について説明しています。

3 主な見直し内容について

第2章 現状と課題

(1) 汚水量の見直し

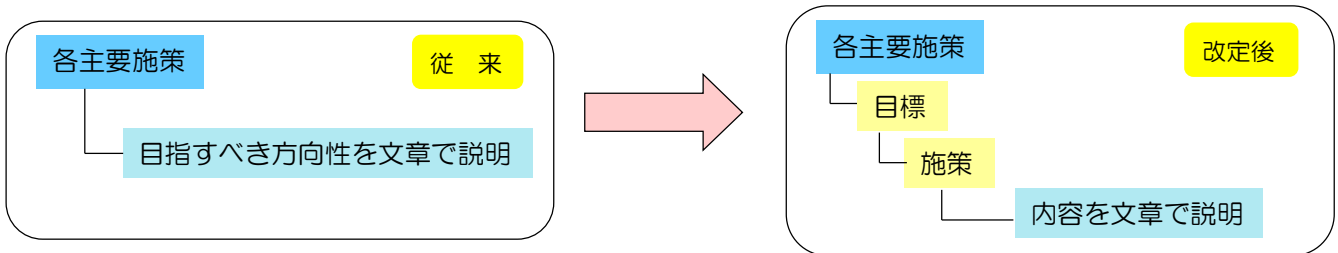
直近の人口推計に基づき、水洗化人口及び汚水量の将来見通しを見直します。

(2) 課題等の整理

SDGsの取組みやDXの推進について検討するほか、下水道事業における現状と課題について改めて整理します。

第3章 経営の基本方針

平成28年度に策定した長野市下水道ビジョン【改訂版】の基本方針を、経営の基本方針としているため、大きな方針の変更はありませんが、長野市上下水道局が目指している方向性をわかりやすく示すために、長野市下水道ビジョンを基に目標と目標に対応する施策を明確にします。これにより、毎年行っている進捗管理においても、目標に対する状況がよりわかりやすくなります。



第4章 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資財政計画の更新

前回戦略策定後の実績や社会経済情勢等を反映させるとともに、物価上昇も想定した投資財政計画に更新します。また、新たに「原価計算表」を作成し、一層の見える化を図ります。

(2) 目標の再設定

総務省から公表される経営比較分析表の経営指標について、現行の経営戦略では以下のとおり令和10年度までの目標と令和3年度時点の中間目標を設定しています。この目標値について、これまでの実績等を踏まえ必要に応じて再設定します。

※H28策定時に設定した目標

指標名	(指標の意味)	目標 (R10)	中間目標 (R3)	参考 (R3)
水洗化率	(現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標)	99.90%	98.34%	97.31%
管渠老朽化率	(法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表した指標)	5.20%	3.40%	3.20%
雨水渠面積整備率	(全体計画面積に対する整備面積の割合を表した指標)	36.40%	34.30%	34.28%
経常収支比率	(使用料収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。)	120%以上 (毎年)	同左	123.21%

を再設定

(3) 下水道使用料について

下水道使用料の見直し等については、本審議会の答申内容と審議結果を反映させた投資財政計画及び50年シミュレーションを経営戦略に掲載します。